

磐城時報

石城郡石城郡平野町四十四番地
編輯兼發行人 岡田 弘成
印刷 磐城印刷所
電話 二五五
郵政掛號 第三三三號
郵政特准掛號 第三三三號
廣告料 一行十四字 日金五十銭
▲日刊(日曜、祭日) 休刊

アルミニウムイオンの爲め 水田が白色に變る

灌漑水分分析の結果判明 對策について大山技師談

赤井村大字塩田の水田が白色を呈する結果適切と認め認可する事呈し霜でも降つたやうになつてゐるので縣農事試験場から高崎日間に着工し二ヶ月以内に竣工を要するものである。

家屋税 賦課調査

平町では昭和三年度家屋税賦課のため三日から調査に着手した。十五日頃終了の見込みで調査員左の如し。

▲新町、長橋、材木町、鍛冶町、南町、四町目、五町目、南白銀町、仲町(松本新次郎、吉田政吉)

小名濱の磐城丸が 鯉八百尾を釣る

水揚相場二十五割 東北最初の鯉漁

小名濱町水産試験場磐城丸は鯉の大群に遭つたので中八百尾を去月十六日小名濱、江名、豊間を釣獲して三十日小名濱、江名四倉等各濱の遠洋漁業船の船長四倉の三箇所に陸揚げした。今二十数名を乗せ天測講習を兼ねるの陸揚げは石城地方に於ける鯉漁の最初で、水揚げ相場は二十五割から三十割位であつた。

築港一部を 船揚場とする

石城郡江名漁業組合長田中政吉氏から二十三日附で申請し、當時報導の通りであつたが、昨十五日割から三十割位であつた。同港護岸東隅の一部を共同漁船沿岸から八丈島附近に出で磐城丸は三日まで小名濱に碇泊し、船揚場に改築計劃は縣に於て調師路二十八日頃千葉縣沖で突然し今度は近海に於ける鯉漁場調

貨資金が取立たぬため 青物屋發狂す

詰らぬ物を盗み廻る

湯本町字八仙青物商鈴木甚四郎(三四)は最近炭礦が不景氣なため坑夫達に青物を貸買した百圓が思ふやうに取立たぬのを苦にして精神に異常を呈し去る二日夜十時頃湯本町字三箇瀬戸物商比佐築一方軒下から土管數本を窃取し同夜竹田肉店に忍び入つて秤一臺價格十八圓を窃取したため三日平署に捕はれ取調圓の藝妓遊びをした等と出鱈目長來任する。

文書を偽造し 二千圓詐取

四倉町本町横出才二(四六)は達する被害を蒙つたので善後策須賀川町菊地方鈴木松之助(三)講究中であつたが、四日午後一時許に相手取り私文書偽造行使(四)を相手取り私文書偽造行使(四)の訴訟を提起したが右は大時總會を開き具体的に協議を遂正十二年被告が須賀川町の原告の家の借受け日本商店と稱し雑貨店を開く事になり資金として金二百圓を借用する際貸兄松(四五)の承諾を得ずして保証人として私文書を偽造したもので尚ほ四倉銀行、磐城銀行、湯本信用無盡會社、磐城無盡會社より前記の如き手段で二千圓を借用費消したものである。

婦人農事講習 岡小名の紛擾解決

村下船尾農事講習組合では四日午前九時から同村梵音寺で郡農會鈴木技手を招き婦人農事講習會を開いた。

平の飼鳥熱 啼き鳥に變る

昨年末まで素晴らしい勢ひで流行し一時鳥禽界を風靡した石城郡地方の十姉妹、インコなども相當利殖本位で飼育してゐた向きもあつただけで昨今の如く相場が暴落したので本年春以來その流行熱は中絶し漸く眞の愛鳥家が保存してゐる位で昔日の觀はなくなつたがこれに代つて目白、山雀、鶯、雲雀などの鳴き鳥が愛育される様になつた。この程の調査による飼育数は平警察署管内にて二百六十八羽に達し昨年四月中の調査数より三割方の増加を見てゐるがこの種の小鳥は急激なる流行を見ざるも徐々に飼育数は増加されて行く傾きがあるがカナリヤなどもこれ等と同様健康な歩調で飼育されてゐる模様である。

農事實行組合會 撞球大會

野村字戸田仲作農事實行組合總會は四日午後一時から開會した。撞球場では開業祝ひを兼ね五松書記と共に三日來平し四日朝月六日第一日曜日正午から常連

土地收用法 赤井嶽登山

石城郡内郷村學校校地擴張事業は今回内務大臣より土地收用法により土地を收用する事を得るものと認定され三日公示された。

降霜被害 善後策協議

平窪果樹組合では過般降霜に平窪村果樹組合では過般降霜により梨園、桃園等が六萬圓に

撞球大會 六日に迫る

野村十五町目織田氏經營スラ撞球場では開業祝ひを兼ね五松書記と共に三日來平し四日朝月六日第一日曜日正午から常連

赤井嶽登山

福島地方裁判所島倉檢察正は小松書記と共に三日來平し四日朝月六日第一日曜日正午から常連

▲加藤氏の葬儀 過般 平傳染病院で死亡した平町仲町 加藤新氏の葬儀は来る九日午後 二時錦村自宅に於て神式により 執行する。

映畫界

▲熱血の魁人 幕末—草深き洛西の古寺に唯 一人、白色に光る銀の十字架 を胸に抱いて静かに世上邪宗 と謂はる、神に祈る一人の偉 丈夫があつた、それは十木參 平と呼ぶ勤王の血に燃ゆる熱 血の士であつた、不慮の火災 のために家を焼かれて不圖に た機からこの古寺に押かけて 居候してゐる奈次、千代香と 云ふ姉妹の藝妓があつた、若 い男と女—併し參平と奈次は 互に自重してゐた。

其頃洛中洛外では尊王、佐幕 兩派の軋轢は日に烈しくなつ たら、或る夜佐幕派の一隊は 三條鳥居に於ける勤王派の會 合に斬込まんと關を突いて走 つて行く、その先頭に立つて 走る偉丈夫、それは參平であ つた、その急を知つて尊王派 も又參平である、參平は主義 思想を異にした風貌全く相同 じの双生児の弟であつた、そ して一人は尊王派に、一人は 佐幕派に活躍してゐたのであ る、この騒亂の渦中であつて 參平は自分の弟が尊王派士を 殺した事を同志の爲めに自分 が殺したと誤解されて苦しい 立場に陥つてしまつた、千代 香は佐幕派の爲に殺されてし まつた、亂の森、勤王黨會合 の席上參平は同志を斬つた、 關を通じて冷かにこの様子を 見てゐた今一人の參平が居る 途に同志數名を斬つた參平は 自己が信じてゐる神を疑ひ古 寺の一室に密かに造られた聖 堂に神を呪ひ奇蹟を見せよと 示せ!と狂ひ叫んだが眼目 したのであつた。(平館)

群畫一蹴猛優大會

松竹キネマ作品 監督衣笠貞之助 主演林長二郎、千早晶子 悲劇 鬼あざみ 人の生命の續く限り何を希ひ 何を望むものであらう、生命 の終る時、人間が如何に弱き ものであるかを知る時、何物 を悟るであらう?

日活現代派超特作品 監督田坂具隆 主演廣瀬恒美 浦邊泰、高木永二 活劇 鷹丸 黒鷹丸は青年北村の名と共に 港の語り草である、港の猛者 嵐の虎は美しき女性を中心に して北村を狙つて居た、異 國の地、上海の港に恐るべ き大旋風が...

日活巨人淺岡信夫の第一回 時代映畫 主演淺岡信夫、 伏見直江 幕末 熱血の魁人 時、幕末洛陽の夜、朗々と詩 を吟する大男があつた、勤王 佐幕?何れでもない、勤王 の剣狂だ、忠義が鳴るぞ、 來い、...

四月六日ヨリ四日間限り 日活 日曜學生デー 土曜 日曜學生デー 日活 高級常設 平 館 松竹 高橋常設 平 館

原齒科醫院

平町土橋通り 電話三一三番

高久病院

院長 高久 忠 平町 電話一三五

印刷物は 加納活版所

赤心堂病院

産科婦人科部主任トシテ 醫學士野秋善直新任ス 平町田町 電話四七五 院長 新妻 由五郎 主任 野秋 善直 産科、婦人科 主任 小林 四郎 内 科 主任 木下 寅市 X光線科、藥局

大和田醫院

耳鼻咽喉科 平町南町 電話一七〇番

吉田眼科醫院

平町紺屋町 電話六八八番

磐城病院

内科、外科、婦人科 小兒科、花柳病科 入院隨時 電話一一四番

外科專門

入院隨意 上野外科醫院 南町 電話二二九

女ゲーム取り 十五名募集

委 細 面 談 平町十五丁目

スズラン撞球場

内 科 小兒科 (院長毎日診療) 醫學博士 難 波 省 三 内 科部長 栗 野 省 三 外科一般花柳病科 醫學士 家 憲 介 産婦人科部長 醫學士 五十嵐 雄 二 藥 局 局長 吉 本 孝 治 平 本院主事 賀 澤 忠 二 電話 七二番

最新 X光線装置

獨逸シーメンス・ユニバーサル・ヘリオドル 五月十日ヨリ診療開始 診察 寫眞 深部治療 主任 醫學博士 難 波 睦 昭和三年五月 城 警 共 濟 病 院 平(電話六四二番) 入院院自炊ノ便アリ 看護婦募集

醬油と味噌 山崎合名會社 東京支店 上野車坂四三 電話(營業部専用)一〇番 (電話)一般用二七番 振替東京一九七五五番 電話下谷五七二番 振替東京六八三二二番

牛豚肉特價

牛中肉	百匁	金三十
牛上肉	同	金五十
牛口肉	同	金七十
豚中肉	同	金九十
豚上肉	同	金七十
豚口肉	同	金九十
廉賣王	同	金六十

深谷牛肉店

電話五二四番

優秀新藥トリックス

御心配は御無用です 淋病、消渴、膀胱カタル等の諸症 偉効ある 特約店 平町五丁目 山野邊藥局

耳鼻咽喉科

平町仲田町 移築場所 合津醫院 電話五五九番

滋養、強壯劑として愈々好評 偉大なる藥酒 栗守酒 朝の一盃は精力の根源、晩の一盃は睡眠の助力 栗守酒特約店 大平屋藥店 代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話六四二)